

7 疾病 5 事業 在宅医療に関すること

各地域の現状 (できること、できないことの確認)	現状から見える課題と対応策(案) (医療資源の不足を補うための具体策)
<p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三島市の人口は、109,659 人である。(平成 29 年 4 月 1 日現在) ○高齢化率は、27.0%で県平均 (27.6%) 並みである。(平成 29 年 4 月 1 日現在) ○高齢者世帯の割合は、26.6%で県平均 (23.6%) を上回っている。(平成 28 年 4 月 1 日現在) ○一人暮らしの高齢者世帯の割合は、14.5%で県平均 (12.8%) を上回っている。(平成 28 年 4 月 1 日現在) ○医療施設は、6 病院、96 医科診療所、62 歯科診療所である。(平成 29 年 5 月現在) ○医科診療所の医師数は 82 名で、内、60 歳以上が 53.7%、70 歳以上が 24.4%となっている。平均年齢は、61.93 歳である。(平成 28 年 4 月現在) <p>【総論】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○7 疾病の内、5 疾病 (脳卒中、糖尿病、ぜん息、肝炎、精神) は、各疾病の急性期医療に対応できている。 ○2 疾病 (がん、心筋梗塞等の心血管疾患) については、がんの集学的治療及び心筋梗塞等の心血管疾患の急性期の 24 時間対応が可能な受入病院は、三島市内にはない。 ○三島総合病院は、三島市内の産科救急受入病院として、平成 28 年 3 月、周産期センターの運営を開始したが、産科医、小児科医の充足ができず、産科救急等の患者受入ができない状況にある。 ○三島市は、1 市 1 医師会の強みがあり、関係機関と連携した在宅医療への取組みが行われている。平成 27 年度に立ち上げた「Living Will 研究会」及び平成 29 年 5 月に開設した「三島市医療介護連携センター (三島市医師会へ委託)」など積極的な取組みが行われている。 	
<p>【がん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○五大がん等の集学的治療を担う医療機関及び緩和ケア病棟を有する病院は、三島市内にはないが、 	<p>【がん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三島市の 5 大がんの受診率は、いずれも県平均を上回っているが、がん予防対策に早期発

7 疾病 5 事業 在宅医療に関すること

<p>各地域の現状 (できること、できないことの確認)</p>	<p>現状から見える課題と対応策(案) (医療資源の不足を補うための具体策)</p>
<p>在宅療養（ターミナルケア）を担う診療所が 10 箇所あり対応している。</p> <p>○五大がん等の集学的治療（手術、放射線治療、化学療法の組み合わせた治療法が可能なこと）が必要となった場合については、駿東田方圏域に、がん診療連携拠点病院が 2 箇所、及び地域がん診療連携推進病院が 2 箇所あるため、これらの 4 病院等に患者を紹介している。</p> <p>○平成 26 年度の五大がんの受診率は、いずれも県平均を上回っており、特に胃がん検診の受診率は県下で最も高い。</p> <p>【脳卒中】</p> <p>○三島総合病院は、脳卒中の「救急医療」を担っている。在宅療養を支援する診療所は 7 箇所あるが、身体機能を回復させるリハビリテーションを担う医療機関は市内にない。</p> <p>○三島市では、平成 28 年度に特定健診の結果、高血圧、高血糖等に該当し、医療機関に受診が必要となった住民に対し、保健指導及び受診勧奨を行い、確実に医療機関受診につながるよう支援を行っている。</p> <p>【心筋梗塞等の心血管疾患】</p> <p>○心筋梗塞等の救急医療を担う医療機関は市内にない。三島中央病院は、これまで心筋梗塞等の「救急医療」を担ってきたが、循環器科医師の不足により当該救急患者の入院受入ができない状況にある。</p> <p>○三島市では平成 13 年 4 月より沼津医師会と協力して、夜間・休日に循環器輪番制を行っている。</p> <p>○県のモデル事業として、重症化予防対策事業に取り組んでおり、平成 28 年度に特定健診の結果、高血圧、高血糖等に該当し、医療機関に受診が必要となった住民に対し、保健指導及び受診勧奨を行い、確実に医療機関受診につながるよう支援を行っている。</p>	<p>見、早期受診は最も重要であるため、働き盛りの層を中心に引き続き受診勧奨に努める。</p> <p>【脳卒中】</p> <p>○駿東田方圏域においては、脳卒中クリティカルパスをツールとした医療連携が行われているため、市内の医療機関の参加を進めていく。</p> <p>○脳卒中発症の危険因子である高血圧症、メタボリックシンドローム、喫煙対策などの予防啓発・指導、受診勧奨の事業を充実させて実施するとともに併せて脳梗塞等の初期症状の特徴等について啓発していく。</p> <p>【心筋梗塞等の心血管疾患】</p> <p>○心筋梗塞等発症の危険因子である高血圧症、メタボリックシンドローム、喫煙対策などの予防啓発・指導の事業を充実して行く必要がある。</p> <p>○近隣の市町に循環器疾患に対応できる医療機関はあるが、市内においても心筋梗塞等の救急医療に対応できる医療機関の確保が望まれる。</p>

7 疾病 5 事業 在宅医療に関すること

各地域の現状 (できること、できないことの確認)	現状から見える課題と対応策(案) (医療資源の不足を補うための具体策)
<p>【糖尿病】</p> <p>○三島総合病院は、糖尿病の専門治療、24 時間対応可能である。その他、「疾病又は事業ごとの医療連携体制調査」によると血糖コントロール不可例などの場合における治療方針の決定が可能な病院は 3 箇所（芹沢病院、三島東海病院、三島共立病院）である。</p> <p>○県のモデル事業として、重症化予防対策事業に取り組んでおり、平成 28 年度に特定健診の結果、高血圧、高血糖等に該当し、医療機関に受診が必要となった住民に対し、保健指導及び受診勧奨を行い、確実に医療機関受診につながるよう支援を行っている。</p> <p>【ぜん息】</p> <p>○三島総合病院は、ぜん息の発作時に呼吸管理等の治療が 24 時間対応可能である。</p> <p>【肝炎】</p> <p>○三島総合病院及び三島中央病院は、肝生検等の専門的検査による治療方針の決定及び 24 時間体制で肝不全への対応が可能な医療機関として、地域肝疾患診療連携拠点病院に指定されている。</p> <p>【精神】</p> <p>○精神科病床を有する病院が 1 箇所（三島森田病院）ある。心療内科または精神科を標榜している診療所は 5 箇所である。</p> <p>○疾病又は事業ごとの医療連携体制調査では、駿東田方圏内で身体合併症に対応可能な病院は、順天堂静岡病院と沼津市立病院の 2 病院があるが、両病院ともに精神科専用病床を有していないため、精神科での入院が必要な患者の合併症の対応が困難な状況にある。</p> <p>【救急医療】</p> <p>○平日夜間及び土・日、祭日などの時間外の救急体</p>	<p>【糖尿病】</p> <p>○危険因子であるメタボリックシンドロームの予防啓発・指導の事業を継続して行く必要がある。</p> <p>○三島市では重症化予防対策事業に先駆けて、平成 24 年度から「スマートウエルネスみしま」を立ち上げ、全市民を対象に健康マイレージ事業やノルディックウォーキングの推奨等、消費カロリーを上げることの取り組みを行っており、平成 25 年度から糖尿病対策会議を開催しており、これらの事業の充実強化を図っていく。</p> <p>【ぜん息】</p> <p>○この地域のぜん息の死亡率が高いのは、喫煙率と相関関係があるものと考えられるが、今後、ぜん息の死亡年齢の構成の分析が必要である。</p> <p>【精神】</p> <p>○精神科入院が必要な患者の合併症の対応が困難な患者の入院に対応するため、駿東田方圏域において総合病院等に精神科身体合併症患者用の専用病床を確保することが望まれる。</p> <p>○高齢化とともに認知症患者が増加することが考えられるため、認知症サポート医の確保等、地域での体制づくりが必要である。</p>

7 疾病 5 事業 在宅医療に関すること

各地域の現状 (できること、できないことの確認)	現状から見える課題と対応策(案) (医療資源の不足を補うための具体策)
<p>制は、1次救急として、三島メディカルセンター及び沼津夜間救急医療センターが「内科、小児科、外科」の時間外診療に対応しており、「耳鼻科、産婦人科、眼科」については、三島市医師会並びに沼津市医師会の医療機関が輪番により時間外診療に対応している。</p> <p>○2次救急は、三島総合病院及び三島中央病院が参加した輪番体制が敷かれている。</p> <p>○救急告示病院は、三島総合病院、三島中央病院、三島東海病院の3施設である。</p> <p>【災害医療】</p> <p>○災害拠点病院に三島総合病院が（県）指定されており、救護病院に三島総合病院、三島中央病院、三島東海病院の3病院が（市町）指定されている。</p> <p>【へき地医療】</p> <p>○該当なし</p> <p>【周産期医療】</p> <p>○正常分娩を担う医療機関は、1病院（三島総合病院）、2診療所（安達産婦人科クリニック、田中産婦人科医院）がある。平成27年次の三島市の出生数は786人で市内2箇所の診療所の平成27年度の分娩数は延べ679件で、これは三島市の出生数の86.4%になっている。</p> <p>○三島総合病院は、平成28年3月に周産期センターの運営を開始したが、産科医、小児科医が充足できておらず、地域の産科開業医から紹介された妊産婦の出産及び妊婦健診のみに対応している。</p> <p>【小児医療】</p> <p>○休日時間外における小児の軽度の初期救急医療は、三島メディカルセンター又は沼津夜間救急医療センターが診療に対応している。</p> <p>○入院治療が可能な小児救急医療機関は市内になく、市外の対応可能な医療機関に搬送している。</p> <p>○市内で小児科を標榜している病院は1箇所（三島</p>	<p>【災害医療】</p> <p>○救護病院に耐震化が行われていない病院が含まれているので、発災時の救護機能を確保するためにも耐震化を進める必要がある。</p> <p>【周産期医療】</p> <p>○三島総合病院の周産期センターの機能を果たせるよう運営に務めていく必要がある。</p>

7 疾病 5 事業 在宅医療に関すること

各地域の現状 (できること、できないことの確認)	現状から見える課題と対応策(案) (医療資源の不足を補うための具体策)
<p>共立病院)、診療所 8 箇所がある。</p> <p>【在宅医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三島市は「三島市医療介護連携センター（三島市医師会へ委託）」を平成 29 年 5 月に開設した。看護師、介護支援専門員の資格を有する在宅医療コーディネーターを配置し、三島市医師会の非常勤医師と連携して市民からの在宅医療等の相談及び医療・介護関係者研修などを行っている。 ○三島市では、平成 27 年度に施設医及び施設職員が参加した「Living Will 研究会」を立ち上げ、看取りについて検討を重ねている。 ○在宅医療を支援する医療機関は、在宅療養支援病院 2 箇所（三島中央病院、三島共立病院）、在宅療養支援診療所 15 箇所、在宅療養支援歯科診療所 6 箇所、在宅患者訪問薬剤管理指導届出薬局 52 箇所、訪問看護ステーション 4 箇所である。 ○在宅医療を実施している医療機関（28 年度往診・訪問診療実績、月平均実績 1 名以上）は、19 箇所（19.4%）である。 ○死亡者数に占める自宅で死亡した者の割合（平成 26 年実績）は、11.1%で県平均（13.2%）を下回っている。 	<p>【在宅医療】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○限られた施設で有効的な機能を発揮するためには、関係機関の役割分担と機能連携を進める必要がある。 ○在宅医療の充実を図る上では、訪問看護ステーションの果たす役割が大きいいため、当施設の確保と機能の充実を図っていく。

医療機関の役割分担、病床機能等に関すること

各地域の現状
(できること、できないことの確認)

現状から見える課題と対応策(案)
(医療資源の不足を補うための具体策)

○平成 28 年病床機能報告結果を見ると、三島市内の 5 病院の合計は以下の状況となっている。(精神病床は除く)

	病床数	構成比	H37 構成比 (圏域全体目標)
高度急性期	0	0.0%	12%
急性期	341	58.3%	32%
回復期	50	8.5%	32%
慢性期	194	33.2%	24%

○平成 28 年病床機能報告結果では、三島市の 5 病院で回復期が 50 床 (8.5%) と圏域の目標の 32% を大きく下回っており、三島市においても回復期の機能を発揮する病院を確保していく必要がある。

○平成 37 年の圏域全体の目標比に比べて、三島市内の病院は急性期、慢性期の機能割合が多く、回復期の機能割合が少なくなっている。

○地域包括ケア病床を持っている病院は、三島総合病院(50 床)、三島東海病院(43 床)、三島共立病院(32 床)の 3 病院があるが、回復期リハビリテーション病床を有している病院は三島市内にない。(平成 29 年 6 月現在)

○市内に地域包括ケア病床を有している病院が 3 病院で延べ 125 床となっており、(地域包括ケア病床は、概ね急性期又は回復期の機能に該当するが) 仮に 125 床を回復期とした場合の割合は、8.5%→21.4%となる。

○訪問診療の実績と平成 37 年度必要量との比較

	平成 28 年度 訪問診療月平均	平成 37 年度 訪問診療目標量
三島市	708 (人/月)	550 (人/日)